

2018年11月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 11 月 えんだより

11 月の聖句 「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」
ヨハネによる福音書 15 章 1 節

秋の到来を感じます。猛暑が昔のここのようで、朝晩は肌寒くもあります。皆様も体調を崩さないように過ごしていきましょう。毎年この時期は、秋の実りのことを書きますが、季節の移り変わりや自然の生業は、人間の営みに色々な示唆を与えてくれます。私は、田舎で生まれ育ったせいか、四季の移り変わりを感じるのが好きで、生き、生かされている自分を感じる事が多々あります。

秋の味覚の柿であり、サツマイモもそうですが、私たちが目にするのは、「実りの果実」であります。しかし、そこまでの過程に、水を撒く人もいれば、肥料を与えてくれる方々の、目に見えない労苦や願い、その働きがあります。それだけではなく、その水分や光、栄養を取り込む自然の営みがあり、同じように育てられても、できる果実は、色んな色や重さや形があって、私たちの目に映ります。私たちの目の前の食卓に並ぶには、家族の働きがあることも忘れてはなりません。目には見えない働きのうちには、変わらず育ててくれる存在があるということ、私達は忘れてしまいます。人間の弱さや愚かさなのかもしれません。また最近、想像力が弱くなっているのかもしれないと感じます。

真の実りは何か？と考えた際に、自分の思い描く人生や充実した暮らしを思いうかべるかもしれません。その実りは、自己実現の手段や目にする果実かもしれません。だとしますと、実りは自分の力で勝ち取るものという錯覚に陥る場合があります。時には、今の自分があるのは、自分の力で成し遂げた成果であるとも考えてしまうのです。人間の驕りや思いあがり、そんな時に見えてしまいます。このように書く私は勿論のこと多くの自省をこめてこれを書き留めたいと思います。私達は枝であるのに自分自身が木であるかのように思い違い、果実を実らせたのは自分だと。

イエスは、「わたしこそがぶどうの木である」と語られています。しっかりとその木に繋がり、御言葉に触れ、私たちの働きが自然の営みの中にあり、その自然の営みは、神様の大きな愛の中で育まれていることを忘れてはなりません。子ども達が「ありがとう」と心から感じられる日々は、私たち大人が日々思い返すことにあるのかと思います。実りの秋、充実日々が過ごせますように祈ります。

11 月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	ありがとう	ありがとう
月の願い	<p>*秋の実りを喜んで味わう。</p> <p>*保育者の祈る姿を通して、思いを感じる。</p>	<p>*秋の実りに感謝し、あじわう。</p> <p>*いろいろな人の働きを心にとめる。</p> <p>*気持ちや考えを伝え合いながら遊びを深める。</p>
讃美歌	おほしがひかる	あなたの平和の 聖歌集増補版 1